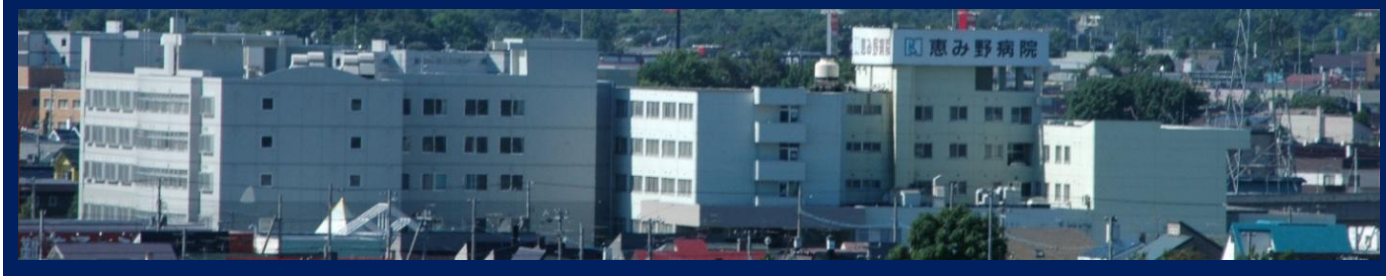
信頼と誇りと

恵み野病院だより

令和7年7月11日　No. 90



院長就任あいさつ

　2025年４月１日付けで院長に就任いたしました三浦洋輔です。院長という大役を拝命し、その責務の重さに身が引き締まる思いです。私は2008年に当院に着任して以来、消化器内科医として、地域の皆様の診療に力を尽くしてまいりました。

　今後は、地域の皆様が安心して受診できる医療環境を整備するため、スタッフ一丸となって確かな地盤を築いてまいります。充実した療養環境の構築、質の高い医療提供と患者サービス向上に全力を注ぐ所存です。また、地域医療との連携強化を図りながら、持続可能な医療体制を推進していきます。

　皆様からのご意見・ご支援を賜りながら、より信頼される病院づくりを進めてまいります。これからもどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

４月着任医師のお知らせ

整形外科　向井 力哉

本年4月より恵み野病院整形外科に赴任致しました向井力哉(むかい りきや)と申します。札幌医科大学整形外科学講座に入局後北海道の各地で整形外科診療に携わらせて頂きました。外傷（ケガや骨折）・人工関節手術・骨粗鬆症・関節リウマチを専門に診察させて頂いておりますが、整形外科全般(節々の痛み、手足のしびれ、肩こり、腰痛等)も勿論対応可能ですので、お気軽にご相談頂ければと存じます。

また今年度より札幌医科大学附属病院とも連携致しましたので、大学病院と遜色ない医療を皆様に提供させて頂ければと考えております。

恵庭及び近隣の医療に貢献できるよう力戦奮闘致しますので、どうぞ宜しくお願い致します

循環器内科　樋口 隼太朗

新年度より循環器内科に赴任しました、樋口隼太朗（ひぐち しゅんたろう）と申します。生まれは十勝地方ですが、これまでは旭川を中心に豪雪地帯で勤務することが多かったです。初めての恵庭エリアでの生活にワクワクしています。慣れない部分からご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、この地域の医療に貢献すべく尽力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

糖尿病内科　平中 奈津弥

4月より恵み野病院糖尿病内科に赴任致しました平中奈津弥(ひらなか なつみ)と申します。令和4年に旭川医科大学を卒業し、その後は同大学で初期研修を行い、昨年は関連病院で勤務をしておりました。恵庭市周辺は以前からよく訪れており、恵庭市や恵庭市近隣の市町村の皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

耳鼻咽喉科　吉田 富久美

耳鼻咽喉科の吉田富久美(よしだ ふくみ)と申します。
北九州から北海道へ戻ってきました。恵庭市民の**みみ・はな・のど**の健康を守れるように精一杯頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

麻酔科　斉藤 慶樹

4月に赴任した麻酔科の斉藤慶樹(さいとう よしき)と申します。北海道内のいくつかの病院で勤務した後にここ恵み野にやって参りました。我々麻酔科の仕事は手術の際に患者様皆様の安全を守ることです。地域の皆様が安心して、安全に手術を受けられるようこれまで培ってきた経験を活かしていく所存であります。どうぞよろしくお願いします。

消化器内科　佐々木　耕

今年度から赴任しました消化器内科医師の佐々木耕(ささき こう)です。
恵庭での勤務は初めてですが、よろしくお願い致します。

外科　花本　尊之

4月より外科に赴任いたしました花本尊之(はなもと たかゆき)と申します。
卒後４年目に１年間当院で勤務させていただきましたが、20年余り経過してからの出戻りです。以前と比べて体の衰えは隠せませんが、以前と変わらず恵庭の医療に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

研修医　柏木　朝陽

4月より恵み野病院で研修医としてお世話になります、柏木朝陽(かしわぎ あさひ)と申します。
出身は旭川で、出身大学は北海道大学です。至らない点も多々あるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

研修医　成田 大高

4月より恵み野病院で研修をさせて頂いております成田大高(なりた ひろたか)と申します。
長沼町出身で、北海道大学を卒業し、この度お隣の恵庭市で働くことになりました。
スタッフの方々に頼らせていただきながら、僕自身も病院の一員として少しでも地域に貢献できるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

病院敷地内禁煙のお知らせ

当院の**病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止**となっております。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。　**※電子たばこ等も含みます**

恵み野病院ホームページアドレス：　**http://megumino.or.jp**

血液透析センター

糖尿病や高血圧・動脈硬化・心不全、慢性糸球体腎炎、尿路の病気などさまざまな原因から腎臓の機能が低下した結果、老廃物を尿に排出できなくなりそれによっておこる慢性腎臓病の症状は「尿毒症」という言葉で表現されてきました。慢性腎臓病は初期には自覚症状に気がつかない方が多いのですが腎臓の機能が限界に近づくと実にさまざまな症状や合併症を引き起こします。そのため腎臓の働きの一部を代用する透析治療が必要になってきます。2023年末の時点で全国では34万3508人の方が慢性腎不全のため透析治療を受けています。2025年3月末の時点で、当院および当法人の恵庭ｸﾘﾆｯｸとで合計165人の方が透析治療をうけております。

当院の血液透析センターの主たる業務内容は

１．血液透析治療開始の判断と日常の外来透析の維持管理、合併症治療
２．血液透析に必要な血管アクセス作成手術や再建手術
３．合併症などで投薬や手術、処置などを要する患者さんの入院中の透析

その他、他科と連携して急性腎不全に対する緊急透析、家族性高ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症に対するLDL吸着、潰瘍性大腸炎などに対するG-CAP療法、薬物中毒に対する血液吸着、敗血症性ショックに対するエンドトキシン吸着、血漿交換などその他のさまざまな血液浄化療法も透析センターで行っております。

透析治療に関わるさまざまな分野の中で、この数十年の間に
①貧血や骨やカルシウム・リンなどのミネラルに関する治療薬（薬剤）
②ﾀﾞｲｱﾗｲｻﾞｰという血液をきれいにしてゆくための中空繊維の束でできた筒（膜・素材）
③身体から水を引くスピードを自動的に正確に調整したり、危険がないか常に透析の状態を監視・ﾓﾆﾀｰする装置（工学・機械）
などがさまざまな合併症の克服の中で飛躍的な進歩を遂げてきました。透析治療は医師と看護師だけではなく、これらの医療機器を最適な状態に維持管理しながら安全に治療を進めてゆく臨床工学技士が重要な役割を担っています。生活や通院について利用できる社会資源の手続きなどを相談できるMSW（ﾒﾃﾞｨｶﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）、医療費や各種事務手続きに関わる医療ｸﾗｰｸ、食事についての栄養相談やアドバイスを担う管理栄養士など、病院がもつ実にさまざまな職種のスタッフがいてはじめて透析治療が機能しているのです。

透析治療は電気・水などのインフラ・資材の流通・そして人が安定しているからこそ継続可能な治療であり、そのため、普段からの災害対策への意識が重要な項目の一つであります。
災害報道でみることがあるかもしれませんが、東日本大震災時や胆振東部地震の大停電時など多施設間の連携・協力のもとに透析治療が続けられ、当院もその一端を担うことができました。
これからも当院は地域の透析治療の中核施設としての役割を担ってまいります。

＜担当医＞
渡部嘉彦：旭川医大　昭和61年卒、日本泌尿器科学会専門医、指導医　日本透析医学会専門医
橋本博：旭川医大大学院　昭和55年卒、日本泌尿器科学会専門医